

組 織 ・ 団 体 の 生 い 立 ち（設立のきっかけ）

資料 1

No	団 体 名	発足年月日	取り組みのきっかけ	トリガー（牽引者）	サポート	基 金
1	厚田区自治体育振興会 厚田区コミュニティ「ゆめ倶楽部」(H25.4.1～)	H18.10.26	前身は村時代の厚田村体育協会。 合併後も、スポーツ振興に寄与する必要性を当団体自らが強く持ち合わせ、新たな名称で団体を立ち上げ、これまでの事業を継続スタート。 H23年度より、「食」も取り入れた事業展開を図り、区内外へ食の魅力も発信、同時に名称を変更。	・河合保郎 現会長 故吉田一男 ・当時役員 (宮岸茂・宮川力・栗谷幸介・大内さつき・宮岸とよ子・千田恵子・渡部道夫・東則和)	地域振興担当 厚田区自治連合会	125,000円/年×3年間
2	あつたの森支援の会「やまどり」	H20.03.02	森林を守り、山づくりに寄与し、環境保全・森林の歴史などを活動を通して、多くの人たちと共有し、次世代へ伝え広めることが必要不可欠と考え、組織が立ち上がる。	・故 吉田一男 故 河合雅雄 ・現役員 (八木沼久・伊藤一治・小林和悠)	産業振興担当課長 地域振興担当	1,500,000円
3	あつたライフサポートの会 NPO法人あつたライフサポートの会(H21.09～)	H20.03.29	一番の地域課題を足の問題と捉え、その解決に向けた活動を第1期 地域協議会委員5名が「域教育分科会」を立ち上げ、取り組みが始まる。 交通に対する地域ニーズ把握のため、3回の聞き取り調査を実施、有償運送（「利用者は気兼ねなく」「サポーターは責任が伴う」）を目指し、仕組づくりに着手（H20.3～） 法人格を取得（H21.7）後、国の許可を申請・取得（H22.3）有償運送事業を展開、地域の足としてこれまで6千5百人をサポートしている。 (利用者 平均 650人/年)	・桐山和郎 ・既存役員 (八木沼久・高橋悦子・佐藤勝彦)	地域振興担当 滝の川ライフサポート 運営委員会 三石過疎地有償運送 「すずらん」（新ひだか町）	583,000円
4	あつた資料室リニューアル構想策定協議会 厚田資料室サポートの会（H22.12.13～）	H21.02.25	合併後入館が無料から有料（200円/人）となり、入場者が1/10に激減（3千人から3百人）。 この事実を目の当たりにして、何とかしたいとの想いが地域に芽生え、相談（支所に届く）を受ける。 どこにでもある資料室から、厚田でしか味わうことのできない魅力的な資料室をめざし1年間という時間をかけリニューアルに取り組む。 合言葉は、・・・	故 菊地翠 故大黒利勝 子母澤寛を読む会 (池上盛之・清水三雄・三上正一・故蛸島治・長良幸・柴田肇・河地良一)	地域振興担当	3,000,000円
5	地域教育分科会	H22.02.17	学校運営協議会制度（コミュニティスクール：CS）を活用した学校を厚田区に実現させることで、厚田区ならではの魅力ある教育とその発信から、区外から子どものいる若い世帯を厚田区に引き込むことができないのか？と夢を抱き、会を立ち上げ、コミュニティスクールの制度から勉強を始めた。	佐藤勝彦 委員 (畑中純子・小林晴美・河合徳秋・谷康路・故大黒利勝)	地域振興担当	0円
6	厚田アクアレール実行委員会	H22.12.10	子どもの頃からなじみが深い水彩画に着目し、全国的に珍しい水彩に特化した展覧会を開催することで、多くの人に参加して貰い・厚田を訪れ・知って（感じて）貰うことで、厚田をPRしようと水彩画展を実施。 将来の夢は、厚田に来て厚田の風景を参加者全てのの人に描いて貰うこと。	故 大黒勝利	地域振興担当 望月建（区内芸術家） 高橋敬二（区内在住者） 大黒ファミリー	4,824,000円（１～3回展） 950,000円（４～5回展前半）
7	あつたこだわり隊 厚田こだわり隊（H26.05.02～）	H24.03.23	地元に住んでいて、地元の野菜が購入できない。こんな疑問から組織が立ち上がり、検証販売を経て、農産物直売所をスタート。 あわせて、地元「食」の魅力を発信しようと、望来豚を使った食を区内外へ提供。 豚丼のタレを皮切りに、新たな商品開発へと発展。	故 吉田一男 故吉田純子 河合徳秋 メンバー (小山玲子・大内さつき・盛重栄司・小笠原英史・平賀敏和・八木沼幸恵・小山典子)	地域振興担当 (株)ソラチ (株)中華札幌	3,675,000円（４事業）
その他	地域賑わい呼びおこし隊 複合施設建設構想策定委員会 地域おこし協力隊活用検討委員会 アンケート会議（厚田カンパニー）					0円 0円 0円 0円